

# 咽頭痛と遷延する発熱で発症した HIV 感染症の 1 例

友松 裕貴 池田 稔

日本大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

頸部リンパ節腫脹，発熱，咽頭痛などの HIV 感染症の初期症状は耳鼻咽喉科の日常診療において遭遇する機会の多い症状である。今回，我々は咽頭痛と遷延する発熱で発症した HIV 感染症の 1 例を経験したので報告する。症例は 31 歳男性で，平成 22 年 4 月 20 日より 40℃ 台の発熱・咽頭痛あり，近医内科受診。抗生剤処方され様子みるも症状改善無く，4 月 24 日近医耳鼻咽喉科受診したところ，溶血連鎖球菌による咽頭炎との診断で経過観察していたが，頭痛・倦怠感・関節痛・嘔気・食事摂取不良出現し，4 月 28 日当院当科紹介受診となった。入院時血液検査所見で異常はなく，HIV 抗体も陰性であったため熱源精査に苦慮した。リンパ節生検施行後に再度 HIV 抗体を計測したところ陽性を示した。HIV 感染症の急性感染期を過ぎ，無症候期に移行したとの判断にて退院となったが，咽頭痛・遷延する発熱症例では急性期 HIV 感染症も鑑別診断に加える必要があるものと考えられる。